

<資 料>

平成27年度
「農作業事故の対面調査」
結果一覧表

I. 農機一般

1. トラクター

連続NO	地区名	性別	年齢	平成年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入通院
1	北海道	1	47	25	5	12	金	ブロードキャスタで化成肥料を散布中、肥料の出が悪いのでアイドリングにしてブロードキャスタのホップの中に足を入れて肥料を均したところ、アジテータに左足がブロードキャスタで化成肥料を散布中、肥料の出が悪いのでアイドリングにしてブロードキャスタのホップの中に足を入れて肥料を均したところ、アジテータに左足が巻き込まれた	肥料があり、アジテーターり回転が見えず、脚を入れて、肥料を均そうとした。スコップは着いていたが、使わなかった。	・ 事故後は、機械に触る際は必ずエンジンや動力を切るようにしており、常に前持って最悪の事態を想定して行動するようにしている、とのこと。 ・ 更新後の新型ブロードキャスタには、ホップ底部の網に加えて、アジテータ周囲にガードが付けられている。	巻き込まれた足を無理矢理引き抜いて家族に連絡して救急車手配。小指が切断し、甲から足首の肉が大きく削られる重傷、対応できる病院なく、5件目の病院で処置を受けられた。甲の骨複雑骨折、2カ月間の入院と1年10カ月の通院を余儀なくされた。現在も痛みが残り、爪先を伸ばすことやつま先立ちになることができない。農作業や日常生活でも不自由を感じる状態であるという。	左足小指切断、左足甲複雑骨折、左足甲と足首の挫創	入院60日、通院670日
2	山形	1	79	26	1	14	水	乗用トラクタのキャビンのドアを開いたまま車庫内で前進して、車庫の入口の柱にドアぶつけて、左のとのガラスが割れた。このとき、下に落ちたガラスを素手で拾って掃除しようとして右手人差し指を切った。かすり傷程度だった。	認知症があり、自分ではドアを閉めたつもりであった。	アラーム（扉ブザー）があれば良い	すぐに自宅に戻り、傷バンで処置した。	右手指の切創	無し
3	北海道	1	31	25	4	17	火	ブロードキャスタのコントローラを据え付けるためのステイや作業灯の取り付けステイをトラクタ運転席の横や後方に溶接作業。左手でステイの部品を溶接位置に押さえるため、本来使うはずの溶接面が使えず、目をつぶってやれば大丈夫と判断し、溶接作業を続けたところ、角膜が炎症を起こしてしまった。	・ 溶接の火花が発する紫外線の影響を知らず、溶接面を使わなかった。 ・ シャコ万等の用具を用いて、溶接する部品を所定の位置に仮組みする処置をしなかった。	・ 溶接作業の後には必ず目薬を差すようにした。 ・ 固定具を用いて部品を仮組みし、両手が使える状態にするか、または、ヘルメット型の溶接面を用いる必要がある。	その日の夜になって目の痛みが酷くなったため、翌日、病院へ行き、目薬の処方を受けた。現在は完治している。	角膜の炎症	通院1日
4	山形	1	69	25	6	15	土	5月の田植え終了後、水田転換畑を安全フレームの装着されていない小型乗用トラクタで耕耘後、鋭角の農道から下の水田に転落、トラクタは90度横転した。直ぐに車体から出ることが出来た。	代掻き、田植え後で疲れていたことその他、農道の傾斜がきつくて狭い上に、鋭角に曲がらなければなかった。	ご本人からは特になし。運転しやすい農道が望まれる。	頭から泥だらけになったので、妻に軽トラックに乗せられ家に帰ってきて泥を洗い、近くの大学病院に連絡して娘の車で夕方に行った。	左右の肋骨骨折（12本）	入
5	山形	1	60	24	8	17	土	キャビン付き乗用トラクタで水田を耕起した後、進入路から農道に上がる際、キャビン内のペットボトルホルダからドリンクを取ろうとして、トラクタの右側前輪を農道から踏み外し、斜面を走りながら高さ約5mのところから横転、最後は180度反転、タイヤが上を向いた状態で止まる。ハンドルにしがみついていたため、身体は宙に浮いていたが怪我はしなかった。	キャビン内のペットボトルに気を取られて運転操作をミスした。夏バテ気味であった。	運転者は常に予測しながら運転するべきである。農作業は危ないということを認識しなければならない。	怪我無し	-	-

1. トラクター

連続NO	地区名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入 通 院
6	山形	1	63	25	8	18	金	除草を兼ねて休耕田を乗用トラクターで耕起。耕起終了後、水進入路を上がりきる寸前、脇見運転のため、進入路右側にトラクターが本人が乗ったまま1回転して転落。トラクターには2柱式安全フレームと日除けが付いていた、ハンドルにしがみついていたため怪我は無かった。	脇見運転をしていた。	トラクターの乗り降りは注意している。ブレーキは田の中で連結するように習慣づけている。	単独作業だったが、音に気付いて前の家の人が駆けつけた。怪我等無し	-	-
7	北海道	1	69	26	12	15	月	乗用トラクターに乗って後進しながらハウスの天井部材を組んでいたところ、クラッチから足が滑って意図しないタイミングでバックし、出入口の上端とハンドルに身体を挟まれた	停止する際に、ギアをつゆりつにせず、クラッチを踏むだけで、停止し、脚の滑りなど不測の動きに対応できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> 作業のため停止する際は、ギアを中立に戻すことが必要。 滑りにくい靴を履く必要がある。なお、トラクターのクラッチ等のペダル踏面は、その後の安全鑑定基準改正により、ゴム製の滑り止めを備えるよう定められている。 	挟まれた後、慌ててクラッチを踏み直し、前進して脱出した。胸部を強く圧迫し、痛みがあったため、共同作業者の運転で病院に連れて行ってもらった。診察の結果、骨には異常は認められなかった。	胸部圧迫	通院1日

2. 草刈機

連続NO	地区名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入 通 院
8	秋田	1	41	14	8	12	火	自家所有の水田畦畔の草刈をしていたが、肩掛けを外し刈払機の本体を手で支えて、用水路の水面近くの畦の法面の雑草を腰を曲げてしゃくり上げるような形で刈っていたところ、右側に振ったときに長靴の上から刈刃が当たり、足を切った。	1週間前まで扁桃腺炎で入院していた、体力が落ちていた。草も伸びきっていたので、遅れを挽回しようとして気持ちに焦りがあった。	回転刃が怖くなり、レシプロ型の畦刈専用機に替えた。	家に軽トラックで帰り、靴を脱いで右足の親指付近が切れているのを確認、車で10～15分の総合病院の救急外来受診。麻酔が痛かったがすぐ縫合。1～2週間通院、消毒のため2週間通院（週1、2回）で抜糸し。	右足親指付近の切創（3cm）	通
9	秋田	1	60	19	8	15	土	川沿いのぶどう園にて、乗用草刈り機にて草刈作業中、操作を誤り機械ごと5.1m下の川に転落した。	その頃、朝夕に病院の患者送迎車の運転手を行っていたが、その日は休みだったので草刈りをはかどらせようと早くから焦ってやっていた。	川岸ぎりぎりのところまでは、乗用機械を入れなくて、刈払機で作業を行っている。	川に入水して気を失ったが、気がついてから自力で川を渡り、対岸から道路に上がった。機械音が急に聞こえなくなったため近所の人を駆けつけ、救急に連絡をしてきて、救急車で病院に行った。	右腕と肩の骨折、打撲	入

3. コンバイン等

連続 NO	地区 名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入院 通院
10	富山	2	76	19	9	15		稲の手こぎを素手で行っていて、コンバインのフィードチェーンに巻き込まれた。作業着の袖口が開いていた可能性がある。	周りから「ふらふらするから止めておけ」と言われながら、敢えて行った。また、身長150cmと、手こぎの位置に対して身長が低く、かなり無理な体勢で手こぎをしたと考えられる。 また、緊急停止ボタンのないタイプであった。	高齢者は、とにかく「ベテラン」ではあるが、毎年確実に老化しており、周囲に人である時に、敢えて危険と言われる作業には手をださない。	救急車で入院、手首の接合術にて、接合。ただし、9年経った現在も手を握ることはできない。	左手首、断裂寸前	1カ月入院、その後リハビリ。
11	富山	1	65	27	9	17	月	自脱コンバインで稲の収穫において、当日夕方、最後の圃場で、縁刈りした稲を手こぎしようと稲束を脱穀部に放り上げたとき、穂先が揺れて、目を突いた。	共同作業ではあったが、オペレーターは、当人一人で行っており、かなり疲れた状態で、手こぎをしており、しっかりと把持せずに脱穀部に放り投げていて、穂先が揺らいた。また体格的には、脱穀部がかなり高く、無理な姿勢での手こぎであった。	手こぎの位置を畦際にするなど、高さを確保する。また、相手との連携を作業前に確認しておく必要あり。	一瞬のことで、1週間放置、1週間後就寝後眼が開かなくなり、眼科受診、点眼。その後約10カ月後、未だに症状あり	角膜炎症	通院
12	山形	1	62	25	10	13	火	自脱コンバインで1枚目の水田は刈り終わったが、タンクがまだ一杯でなかったため、隣の水田に行き、外周を刈っていた途中でタンクのブザーが鳴った。このままでは水田から出れないので、既に刈り取った隣の水田に移ってトラックに排出しようとし、畦超え、畦を斜めに超えたため右側に90度横転。運転席にちょうどはまるように落ちたので、怪我は無かった。	コンバインはその年初めての使用で、慣れていなかった。モミを排出する回数を減らしたいと思っていた。いつもは外周2週目くらいまで満タンにならなかった。	早めのモミ排出をするようにする。畦畔は直角に出入りするようになりたい。	怪我無し	-	-
13	秋田	1	63	10	10	16	月	夕日に向かってまぶしさを感じながらコンバインを運転し、市道を走行中、後方からわき見運転の高齢女性が運転する乗用車（バン）に追突され、道路脇の自販機に衝突して投げ出され、意識を失った。	相手の乗用車の不注意。	走行中、国道を走るので、ヘルメットを着用する。	加害者が救急に通報、救急車が来た。頭を打ったので、脳外科に1週間入院、その後同じ病院の整形外科へ移り合計46日入院し、1年後くらいに肩の鉤を取った。	右鎖骨骨折	入
14	秋田	1	45	14	9	13	木	農道上でコンバインのエンジンをかけて排出オーガを垂直立てて、空転させ、前年のモミを取り除こうとしていた。オーガの付け根の部分の排出窓から、はじめ鎌で、その後手で取り除こうとして、排出窓から右手を入れたが、このとき、軍手がオーガに引っ張られ、右手人差し指を骨折した。	モチ米から刈ることにしたので、エンジンを停止しないまま、オーガを回して昨年の残りのコメを掃除しようとした。	現在はうるち米から刈るようにしている。怪我は多い方なので焦らないで作業するようにしている。	手ぬぐいで患部を押さえながら友人の車に乗せられて10分で病院に行き、直ぐ処置をしてもらった。10日入院、その後3~4回通院したが、今でも指が曲がりにくく、ピリピリした痺れ感がある。	右手手指骨折	入

3. コンバイン等

連続NO	地区名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入 通 院
15	長野	1	64	26	11	9	日	自宅庭で、ハーベスタの掃除中、エンジンをかけたまま、糶上げの部分のボルトを外し、左手人差し指を入れたところ、らせん状の金属に触れ、第一関節から切断した。	エンジンをかけたまま、糶の掻き上げ部分に手を入れた。	掃除や点検をするときには必ずエンジンを止める。回転部が見えるように透明なカバーにする。危険の表示。	指が飛んだので、止血し、隣の兄に頼んで病院を受診。切れた指は手袋に包んでいった。	左示指基節骨開放骨折、左示指伸筋腱断裂	9日入院、通院半年
16	北海道	1	64	26	10	22	木	汎用コンバインで大豆の収穫中、手刈りしておいた大豆をヘッドに投げ込んでいたところ、右手が株元カタに触れ、親指先端部を切り落とした	手刈りした大豆を、投げ込む時、リールのみならず、カッター部も巻き込まれる部位であり、完全に停止する必要があった。また、投げ込まず、まだ立毛している大豆の上に手刈りした大豆を置くだけで、収穫するので、その方法が取られなかった。	・ 事故以来、手刈りした大豆を積む場所も決め、投げ込み作業はやらないことにした。 ・ どうしても投げ込み作業を行う必要がある場合は、投げ込み作業に対応した機種を使用のこと。	車で病院受診、5～6針縫う処置を受けた。その後も3カ月間通院、患部の神経がマヒしており、物を落としたりすることがあり、日常生活や農作業でも不自由を感じるがあった。後遺症は徐々に軽くなりつつあるとのこと。	右手親指先端切創	通院90日

4. 耕耘機等

連続NO	地区名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入 通 院
17	京都	2	70	2013	11	17		玉葱の播種のため耕耘機で作業をしていた。移動中、獣よけの防護柵の間（下りになっている）を通ろうとしたときに、耕耘機が少しそれで柵に引っ掛かったので、刃が回転したままバックしたところ、ロータリーが右長靴の上の縁に引っ掛かって、耕耘機のハンドルバーが持ち上がり、転倒。このとき、ロータリーの刃が下腿部に刺さる。耕耘機はそのまま前転してひっくり返ってエンジンは止まったが、刃は刺さったままになった。	普段から耕耘機は力まかせに使っていて、セカンドでバックしたりしていた。事故時は農繁期で夕方ということもあり、注意が足りなかったのかもしれない。また当日は檻にかかった獣の処分に立ち会って、これが心理的に影響したかもしれない。	バックのときは今まではセカンドだったのをスローに落としてはいないがバックを止めたわけではない。今は、事故現場の防護策の隙間をなくし、別の緩斜面のところを通るようにしている。	救急車とレスキュー車が来て、ボルト留めの刃を耕耘機から外し、2時間後には医療センターに刃が刺さったまま搬送。40日入院。完治して、歩行や正座も問題なし。刃は下腿部から足首の皮膚を盛り上げるまで刺さっていたが足の神経からわずかにそれていた。	右下腿部刺傷。	入院40日、リハビリ通院
18	京都	2	70	2013	9	12		玉葱の播種の準備で畑に一人で行き作業して、お昼なので戻ろうと思ったが、もう少し耕耘すべき所があり、作業を継続。畑の縁でバックで曲がろうとしたところ転倒、回転したままの刃が左大腿部に刺さった。	耕耘機の刃を回転したままバックするのは危険であると聞いていたので田では絶対しなかったが、畑だったのでスローなら大丈夫と思ってバックした	手をはなすと回転が止まるようになっている耕耘機を使う。バックしない。	事故当時、耕耘機の刃が刺さったままでもどうすることもできず、2～3時間そのまま現場にいた。刃が付いたまま救急車で病院に行き手術を受けた。	左大腿部の貫通傷	入院とリハビリ通院
19	北海道	1	44	26	7	10	土	乗用管理機のミッションオイルの交換作業後、被害者が機体の下から出ようとしたところ、ブーム基部の下端に頭部をぶつけた	・ぶつかった場所は鋭利であり、面取りがされていなかった。また、ヘルメットをかぶっていなかった。また、作業場所の照明も十分でなかった。	・ 機械の下部に潜り込むなど、障害物が頭部に接触する可能性がある作業を行う際は、特にヘルメットを着用が必要。 ・ 機体下部の頭をぶつけそうな箇所にゴムなどの緩衝材を貼ることが望ましい。	かぶっていたキャップをとって患部を触ったところ、出血していたので直ちに地元の病院へ行き、2～3針の縫合施術を受けた。延べ4日、通院した。	頭頂部裂創	通院4日

5. 田植機

連続NO	地区名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入 通 院
20	秋田	1	66	26	5	15	火	3日間の田植を終えて、エンジンを止めないで側条施肥の田植機の清掃をしていた。水で洗ったが肥料のカスがホッパ内の繰り出しロールにこびりついていたので、右手を入れて取ろうとしたところ、急に指が挟まれ、しびれた。	エンジンを止めないで作業した。	水とブラシを使ってホッパを掃除することにした。点検時はエンジンを切る。 2年に一度はディーラーで点検整備してもらう。	納屋から家に入り、水洗いして市販薬を塗り、カットパンを貼って2週間取り替えながら自己治療した。	右手示指裂傷	なし

6. 運搬・移動

連続NO	地区名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入 通 院
21	北海道	1	64	26	9	16	土	10tダンプの荷台のアオリが外側に膨らんで変形したので、アオリの上端と荷台の底にフックを溶接し、チェーンブロックで引っ張り直そうとしたが、フックが外れて右脚に当たった	<ul style="list-style-type: none"> 大きな荷重がかかる部分に、十分な強度の溶接技術が足りなかった。 アオリ上端は60×60mm、厚さ3.2mmの角パイプであり、チェーンブロックで引っ張れば十分に直せると考えていたが、その他の部材も複合的に構成されており、実際の強度の見積りを誤った。 業者に頼むとお金がかかるため、自分で直そうとしてしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな荷重を要する修理作業は、自前で無理をせず、業者に依頼することが望ましい。 アーク溶接を使うには、安全講習を受講する必要がある。 	事故当時、トレパンの上にツナギを着ていたが、ツナギは破れていなかったで大したことはないと思っていたが、しばらくして血が流れてくるのを感じたので脱いでみたところ、えぐれたような傷があったため、自ら運転して自宅から20分程にある厚生病院に向かい、9～10針の縫合手術を受けた。	右大腿側部の裂傷	通院3日
22	京都	2	83	2014	5	10		荷台牽引式の耕耘機に乗り、水を運搬走行していて、踏み切りを渡っていたら、気が付いたときには遮断機が降りていて、踏み切り内に閉じ込められた。列車が来たので、あわてて飛び降りて轢かれずに済んだが、右足の下腿部を負傷した。耕耘機は列車に衝突された。	耳が遠くて警報機の音が聞こえていなかったことと、暑くて、頭が痛く、しんどいと感じながら、無理をして作業しようとしたこと	耕耘機には乗っていない	救急車で医療センターに運ばれ、その後病院に2週間入院、傷は10～12針縫合、今はなんともない	右下腿部擦過傷	入院
23	北海道	1	43	26	9	9	月	農用運搬機のエンジンカバーを開けて点検していた。エンジンが動いていたが、Vベルトは動いていなかったため、張り具合を確認しようとして思わずVベルトに右手で触れたところ、急にVベルトが動き出し、プーリとの間に人差し指、中指、薬指の先端部が巻き込まれた。	エンジンをかけ、かつクラッチを切らず、Vベルトのテンションを確かめるため、指でベルトを張った途端、テンションを張った状態となり、巻き込まれた。	<ul style="list-style-type: none"> 機械の点検整備や清掃を行う際は、必ずエンジンを止めることにした。 農業機械にもインターロック機構が導入されることが望ましい。 	家族に救急車を呼んでもらい、病院に救急搬送。最初の病院では処置できず、大病院に転送。指先端の肉が削げているため、指の骨の先端部を削る手術を受けた。現在、指の曲がりが悪く、指先の感覚も鈍いが、日常生活や農作業には支障がない。	右手第1～4指先端部割創	入院1日、通院延12日

7. 重機

連続NO	地区名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入 通 院
24	北海道	1	44	27	3	16	日	スタブルカルチをフォークリフトで持ち上げて、爪先を交換する作業中、落としたボルトを拾って、立ち上がったところ、頭を爪先にぶつけた	重量物を持ち上げて、その下に潜り込んだが、落下の可能性がある、落下対策が不十分であり、ヘルメットを着用していなかった。	<ul style="list-style-type: none"> 重量物を持ち上げた場合、真下に入る場合、落下防止策を講じてから入る。物を落とした場合は、棒などを使って重量物の真下から移動させてから拾うよう心がける。 障害物が頭部に接触する可能性がある作業を行う際は、特にヘルメットを着用する必要がある。 	頭を触ったら出血しており、タオルでしばらく押さえていたら血は止まった。念のため受診。日曜日だったため、119番通報して休日診療している病院を教えてください、自分で運転して病院を受診。処置を受けた後、脳外科での診察を勧められ、翌日、MRI診察を受けたところ、内部の異常は認められなかった。	頭部裂創	通院2日
25	京都	1	61	2013	8	11		高さ2.5mほどのトマト残渣を載せ未舗装農道を走行中、強い風が吹いてきて土埃で前が見えなくなって停車したところ、左路肩の方にフォークリフトが傾いて、そのまま3m下に横向きのまま滑って落ちていったフォークリフトごと転落し、左足の下腿部を屋根の側端に直撃された。	フォークをかなり下げて路面を擦って土ぼこりが舞い上がり易い状況であったこと（手順）、未舗装農道の路肩が弱かったこと（環境）、旅行の予定があつて少しあせっていた（人）	農道の舗装（環境）、フォークリフトでなく軽トラックを使用（モノ）、フォークリフトに乗るときにヘルメットを被る（手順）、労災特別加入利用	娘の運転するトラックで診療所に、そこから救急車で中枢病院に運ばれて治療を受けた。皮膚は元に戻っておらず、腓骨もない。	左下腿部挫減	入院とリハビリ通院

8. 電動工具

連続NO	地区名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入 通 院
26	長野	1	31	26	1	14	木	ビニールハウスの鉄パイプのバリを取ろうと、サンダーをパイプに当てたとき、バリの一部が目飛び込んで負傷した。	目の位置の作業であったが、ちょっとした間だからと、いつもはするゴーグルをしなかった。	目の保護は必須。ちょっとしたのでも危険は常在。その後は必ずゴーグルをする。サンダーを止めた。	当日は眼を水洗、ごろごろするので、翌日受診。瞳の上に金属の破片が刺さっていた。危うく失明するところだった。	左目損傷	通院1日
27	長野	1	81	27	6	10	金	ビニールハウスの鉄パイプを切ろうとして、サンダーに金属刃をつけてパイプに当てたとき、反動で手から離れたサンダーが1回転して下から腕に当たり負傷した。	固定式のパイプカッターを貸し出しであり、やむなくサンダーを使用した。	サンダーは片手で握って作業するには重い。鉄パイプを切るには固定式のカッターか手動だが回転式のものを使うようにしている。	切ってしまったと思い、携帯電話で家族に通報したが通じなかった。止血し道まで歩いて行き、近所の人が救急車を呼んでくれた。全身麻酔で手術した。	右腕内肘部切創	入院4日、通院2日
28	長野	1	75	26	12	15	日	ビニールハウスの木製支柱を加工しようとして、電動のこぎりを左手に持ち作業したとき、反動で右手示指と中指を負傷した。	目の粗い電動のこぎりを使用したため。片手で持つには重かった。	後で試みると、チェーン槽の方が遙かに安定して安全だった。安価な鉄の支柱もいい。	水糸で止血し、息子に病院へ連れて行ってもらった。日曜日だったので、仮縫いし、翌日縫合した。	右示指末節開放骨折、右中指DIP解放骨折、	通院4カ月。

II. 用具・手具

1. 脚立

連続NO	地区名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入 通 院
29	秋田	1	79	26	9	15	木	水田転作したリンゴ園において、排水路側のリンゴの木の葉摘み作業をしていたが、脚立から降り、脚立を移動させようとしていたところ、足を滑らせて排水路に転落。その際、コンクリート排水路の角に右掌を強打、右手母指と示指の間（母指丘付近）に裂傷。	今までこなしてきた作業であるため、事故は起こらないだろうという不注意があった。また、排水路を脚立でまたいで作業したため脚立の安定性に問題があった。	足場の悪い環境での作業なので、脚立の設置方法を改善する。	患部からの出血が多かったため、持ち合わせていた手ぬぐいで患部巻いて止血し、自分で軽トラを15分ほど運転して病院へ向い、すぐに縫合してもらった。	右掌母指と示指の付け根部の裂傷	通
30	秋田	1	71	26	10	14	金	リンゴの玉回し作業を終えて脚立から降りる際、上から2～3段目で足を滑らせてバランスを崩し、後ろに転落した。その際、腰から落ちて後頭部も地面に強打した。	脚立の足を少しすぼめた状態で使用したので、脚立から降りるときの傾斜がきつくなっていた。また、滑りやすい靴を履いていた。	木をつめて、8尺の脚立は使わないで7尺の脚立で対応出来るようにした。	直ぐにバイクで自宅に戻り奥さんの運転で送ってもらい救急外来を受診。骨に異常無し、打撲と診断のみ、痛み止め3週間分処方。痛み止めで痛みは治まった。その後2回通院し完治した。	腰部打撲	通
31	秋田	2	60	23	6	10	一	リンゴの摘花作業時に脚立で作業をしていて左に倒れた。	やや傾斜地で脚立の安定が悪かった。	脚立の設置位置を慎重に選定すること。	—	怪我無し	—

2. はしご

連続NO	地区名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入 通 院
32	富山	2	62	27	5	15	土	作業小屋の2階の藁をはしごを使って昇って取っていた。1回目は何誤差も無かったが、2回目に昇ったとき、上から2番目のはしごを握った時、その藁がはしごから外れ、約2.5m下に落下、下にはトラクターがありロータリーに背中を強打。	古くから使っていたはしごの点検をすることなく使用。1つおきの藁にはくさびが入っているが、いくつかは抜けていた。	専業で農業を行っている時代には、農閑期に、道具の手入れ、点検、修理を行っていたが、今は点検せず、いきなり使うことが多い。年間のスケジュールに道具点検を行う事も大切。	骨折はしていなかったが、背部を強打したため、7カ月以上、腕があがらず。接骨院等に通った。	背部打撲	7カ月以上、通院
33	秋田	2	62	25	2	14	一	小屋の屋根の雪下ろしをしようとして木製の梯子を4段上ったところで、梯子が屋根との接触部で右側に滑り、地面に落ちて右足のかかとを単純骨折した。	いつもは主人が下で梯子を支えていたが、その日はいなかった。当日地面は雪がなく、コンクリートがむき出しになっていた。	現在は人に捉まえてもらって昇っている。	数分後、主人が来て防寒着を着せ軽トラで個人病院へ搬送。治療はギプスのみ。その日と1週間くらい通院し、その後はリハビリを行った。現在は完治。	右足かかと単純骨折	通
34	秋田	1	64	22	4	8	日	自宅の作業小屋にてはしごに昇っているときに、はしごが滑りそのまま落下した。	種まき中の慌ただしい時期で急いでいたことと、作業後で床がぬれていた。	梯子が滑らないよう、床が濡れているときは下に何かを敷くようにした。	午前中痛みをこらえて作業したが、昼食後歩行困難、妻の運転で受診。骨には異常無し。ギプスと鎮痛剤。2週間後にギプスは取った。	右足くるぶし打撲	通

3. 鎌

連続 NO	地区 名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入 通 院
35	長野	2	73	27	5	8	木	自宅裏の畑でフキを一鍋分収穫しようとして、葉の部分を持ち、右手に持った鎌で葉だけを切り落そうとして左手の小指を負傷した。	朝は忙しく、考え事をしていて、普段はしない鎌の扱いをした。	ちょっとした時間、ちょっとしたこと、という安易な気持ちがあった。刃物は、危険物との自覚が必要。	血を水洗、タオルで巻き、夫の車で受診。筋断裂で、麻酔をして5針縫った。	左手小指切創	通院4日

4. 雪降ろし用具

連続 NO	地区 名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入 通 院
36	秋田	1	40	3	1	16	水	リンゴの木の雪下ろし（雪べらのカギに枝をひっかけて引っ張りゆする）で柄が2回外れて大腿骨を直撃したので、右太腿内側が黒くなって歩けなくなった。	当時午前中は赤帽（宅配）を行い、牛を飼っていて忙しく、焦っていた。	雪べらの柄の取り回しに注意する。時間に余裕を持って作業する。	当日の晩は患部が黒くなり、寝られず。翌朝、妻に病院に連れて行ってもらった。入院7日通院2日で完治。	右大腿打撲傷	入

Ⅲ. 特になし

1. 歩行中の事故

連続NO	地区名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入 通 院
37	長野	2	83	27	5	17	水	自宅から約1km離れた水田の土手でフキを取ろうと鎌と袋を持って出かけ、土手の傾斜で滑り、転んで石に頭を打った。	滑りやすい長靴を履いていたので、水田の斜面で滑り転んだ。石の多い土手だった。	滑りにくい溝のしっかりした靴を履き、携帯電話をもっていけば良かった。	言動がおかしく、娘が救急車を呼んだ。頭が陥没。点滴3日目に目が真っ黒くなった。	頭蓋骨骨折、急性硬膜下血腫	入院17日、通院2ヶ月
38	長野	2	67	27	4	15	月	ベジタブーツを履き、レタスの苗箱を持ちながら定植作業をしようと、マルチの上を歩いていて、滑って転倒し、足を捻挫した。	マルチを傷めないように、ベジタブーツを履いたが、滑りやすい。	ブーツの素材として、マルチを傷めず、滑りにくい生ゴムなどの検討が必要。	当日は湿布薬で我慢したが、痛みが引けず翌日受診。	左足首捻挫	通院27日
39	長野	2	67	27	6	15	木	自宅前の畑のカボチャに水をあげようと、土手下の川からバケツでくみ上げ、土手を上ろうとしたとき、左足がぎくっとなって膝を痛めた。	土手の斜面42度ときつく、水を持ち上げるとき、不自然な姿勢で腰に負担がかかった。	傾斜を緩くする。水をあげる方法には水道水もある。	ご主人の車で受診。しばらく鎮痛剤の注射。その後、半月板の手術をした。	左半月板断裂	入院8日、通院17日
40	長野	2	82	27	3	14	日	自宅前の水田の淵にある柿の木が邪魔になり、切ってもらったので枝を片付けようとして2度躓いて転び負傷した。	柿の木の枝を運ぶとき、地面に突き出ている石に気づかなかった。	普段通る通路は躓かないように整備しておく。歳なので、重いものを持たない。	転んだ後、痛くしばらく我慢していたが、耐えられなくなり救急車で搬送。	第一腰椎圧迫骨折	入院55日、通院4日

2. 高所転落

連続NO	地区名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入 通 院
41	富山	1	71	26	9	17	月	自宅作業場2階から、階段に降りようとしたとき、安全柵のつもりで張ってあった縄に脚が引っかかり、そのまま逆さまに頭から2.8M下のコンクリート床に墜落	2階部分は暗く、縄の高さが65cmで本人の身長対して高く、そこを跨ごうとして、脚を引っかけた。また、階段を上がりきった踊り場の面積が少なく、安全に階段を昇降出来るようには設置されていなかった。	本来の安全柵を設置すべきであった。また、高所作業にもかかわらずヘルメットをしていなかった。	たまたま、近所の方が犬の散歩で通りかけ、異常事態を発見、救急車を要請。なお、30歳代の時に職場で右眼を損傷し、義眼であり、そのことも、正確な動作を妨げたとも考えられる。	頭蓋骨骨折	2カ月入院、通院約1年以上。

3. 重量物の運搬

連続 NO	地区 名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入 通 院
42	長野	2	78	27	4	11	木	自宅前にあるビニールハウス内で、稲苗用の箱に調合した土を入れる準備をしていて、16kgの土の袋を持ち上げ、混合作業用の箱に入れるとき腰を痛めた。	重い土の袋を持ち上げたとき、不自然な姿勢だったため、腰を痛めた。	重いものは主人にお願いをする。食事に気をつけている。作業台の設置など作業姿勢の改善。	当日は我慢したが、痛みが引けず翌日になって受診、圧迫骨折と診断。	第一腰椎圧迫骨折	入院 17 日、 通院 1ヶ月 1回 7ヶ月
43	富山	1	61	26	11	7	水	実家から持ってきた、米袋30kgをジムニーの後部から、抱えて自宅玄関まで運ぼうとして、持ち上げたとき、腰にぎくっときた	米を車から降ろすとき、啞えたばかりをしており、米袋に近づかないように腰を引いて、持ち上げようとして、大きな力が腰に掛かった。また約30年前に胃の手術を受けており、骨がもろくなっていた。	本人に、胃を切ると骨密度が低下する、との情報が届いておらず、正規の持ち方をしていなかった。さらに、重量物の運搬時の基本的な態勢で持つ上げていなかった。	ぎっくり腰程度と考えて放置していたが、良くなり、6日後に受診、腰椎の圧迫骨折、半年間コルセット、また骨密度を上げる自己注射を1年続け、骨量を増やした。	第12胸椎圧迫骨折	1年 以 上、 通院

IV. 大規模畑作

1. ハーベスター

連続 NO	地区名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入 通 院
----------	-----	----	----	---------	---	---	---	------	-------	--------	------	-----	-------------

44	北海道	1	33	26	9	16	土	パレイショ（種イモ）の収穫中、トラクタのオペレータをしていた被害者がポテトハーベスタの下にイモが落ちたことに気づき、トラクタから降りてこれを拾おうとしたところ、ポテトハーベスタが動いたため、慌てて逃げようとしたが間に合わず、仰向けの状態で左タイヤに胸部を轢かれた。	ハーベスターを完全に停止することなく、降車し、イモを拾おうとし、轢かれた。（踏いた可能性もある）このようなイレギュラーな状態となった時の、作業手順ついて、事前に取り決めがなされていなかった。	動いている機械には近づかないよう徹底。掘り取り部が機体右側に配置されているオフセットポテトハーベスタであれば、トラクタのオペレータが常にハンドル操作する必要があるため、作業中に異変を生じた場合は、トラクタを完全に停車せざるを得ない。また、オフセット型は、トラクタは収穫後のほ場を走行するため、タイヤの踏圧によるイモの損傷等を防げる特長があるので、こうした機種を選定するのにも一考である。	ポテトハーベスタ上の家族が、叫び声を聞いてトラクタを止め、直ちに救急車で搬送。現在、農作業に復帰しているが、上半身の左側の筋力が低下しており、肩こりが酷くなったとのこと。また、退院直後の頃は、就寝時に事故の瞬間がフラッシュバックし、不眠に悩まされたとのこと。最近では、そのようなことはなくなってきたが、ポテトハーベスタには近づきたくないという思いが残っているとのこと。	左肋骨骨折、左肩甲骨骨折、肝挫傷、肺挫傷	入院30日、通院90日
45	北海道	2	52	25	8	11	金	ポテトハーベスタで収穫中、小イモ・石を搬送するコンベアが偏ってくるのを手前に直そうとしたところ、コンベアとローラの間に右手薬指が挟まれた	小イモ・石等を搬送するコンベアが、走行方向に対して左側に偏ってしまう状態。巻き込まれが生じる危険部に、作業者の手が容易に届く構造。コンベアと側壁の隙間に夾雑物が挟まらないようなゴムカバー等が設置が必要。 ・駆動部を停止せずに、手を入れた	事故後、コンベアの偏りは放っておくことにし、絶対に手で触れないようにしている。コンベアが偏らないよう、整備する必要あり。コンベアと側壁の隙間に夾雑物が挟まらないようなゴムカバー等を設置するよう設計が改善が必要。また、巻き込み点に作業者が触られないような構造に改善されることが必要。	共同作業者がすぐに機械を停止、挟まれた指は自力で引き抜く。手袋（厚手のゴム製）を抜くと、薬指の第1関節から先が切断していた。応急処置の後、大病院に救急車で搬送、接合手術を受けた。現在も薬指が曲がらず、触覚や温感が鈍っており、寒いと疼痛が走る後遺症があり、日常生活でも時折、不自由を感じることもある、とのこと。	右手薬指第1関節切断	入院28日、通院中2年以上
46	北海道	1	53	25	10	16	木	ビートハーベスタの掘り取り部に引っかかった茎葉を取り除いていたところ、タッピングナイフで左手親指を切った	・ 夾雑物を取り除くためのバーがビートハーベスタの機体右側に取り付けられていたが、トラクタからの乗り降りは左側であり遠回りになるため、これを使わず、本来の用途とは異なるタッピングナイフを使ってしまった。 ・ ビートハーベスタの下部に潜り込み、窮屈な姿勢での作業だった。 ・ 体調は良好で、心理的にも平穏であったが、収穫シーズンも最後の方であり、多少の油断はあったかも知れない、とのことであった。	・ 夾雑物の除去にはタッピングナイフを使わないことにした、とのこと。 ・ 夾雑物除去用のバーは、作業者の動線上にある機体左側に装着されるのが望ましい。	厚手のゴム手袋をしていたが、出血が多かったため、作業を中断して妻の運転で病院へ向かった。タッピングナイフが新しく、切り口がきれいだったため、縫わずにテープによる縫合処置と破傷風予防の注射を受けた。	左親指切創	通院2日

1. ハーベスター

連続NO	地区名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入通院
------	-----	----	----	---------	---	---	---	------	-------	--------	------	-----	-----

47	北海道	1	24	26	9	8	月	ダイコンハーベスタで収穫中、茎葉部を切り落とすカッタに葉が絡んだため、取り除いていたところ、左手の甲がカッタの刃に触れて切傷を負った	安全鑑定適合機だが、丸鋸状のカッタも含め、使用者によって改造されており、基準を満たさない状態。丸鋸状のカッタの上部半分にはカバーが設けられていたが、刃が剥き出しの部分には作業者が容易に触れてしまう構造。ハーベスタ後部の作業者がオペレータに知らせるブザーや、丸鋸状カッタ等を止めるクラッチレバーがあるが、作業者がとっさに操作できる位置に配置されていない。	<ul style="list-style-type: none"> 事故機の使用を直ちに中止し、安全性が向上した新しい機械に一本化すべきである。 夾雑物を取り除く際は、必ず機械を止めるよう、改めて作業者一同に徹底する必要がある。 	作業を他の従業員に任せて、経営者が診療所へ車で搬送した。応急処置を受けた後、厚生病院へ転送。糸による縫合の必要はなかったが、定期的な消毒を受けるため、2週間通院した。	左手甲切傷	通院14日
----	-----	---	----	----	---	---	---	--	--	---	---	-------	-------

2. ピッカー

連続NO	地区名	性別	年齢	平成 年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入院 通院
48	北海道	1	60	26	8	15	日	ポテトピッカでの作業中、茎よけローラに茎葉が引っかかっていたので、取り除こうとしたところ、右手が手首までローラに巻き込まれた	茎よけローラの周囲にはガードが設けられており、手を入れないよう注意を喚起する表示が貼られているが、ガードの隙間が広く、危険部に手が届く構造。茎よけローラに異物が挟まっても、簡単な操作でローラの間隙を広げる、あるいはローラを空転することができないため、機械を止めた状態では異物を取り除きにくい。駆動している部位に、手を差し込んだ。	<ul style="list-style-type: none"> 茎よけローラ等に異物が詰まるたびに事故が思い出され、必ず機械を止めてから取り除くようにしている、とのこと。 表示による注意喚起に頼らず、危険部位に手が触れないガードを設けるとともに、異物が挟まった際には、機械を止めても容易に取り除くことができる構造にすることが望ましい。 	作業を中断、119番通報。30分後にレスキュー隊が到着するまで、共同作業者がバールで茎よけローラの隙間をこじ開けて血流を確保した。その後、レスキュー隊が茎よけローラの駆動チェーンを切断、ローラ間隔を広げて救出、搬送。表面上は回復したが、しびれが半年以上継続、事故後1年を経過した時点でもむくみがあり、握力が低下したままとなっている。	右手甲の擦過傷、右手首の挫滅傷	通院中（1年以上）
49	北海道	1	35	25	8	10	金	オニオンピッカで収穫していたところ、直径6cm程度の石が選別部が上がってきた。石は搬送ローラの上にあったが、搬送ローラは滑らかであり、3列が同方向に回転しているため、巻き込まれることはない判断し、手袋を着用していた右手を伸ばしたところ、人差指が搬送ローラに巻き込まれた。	馬鈴薯と玉ねぎの収穫時期が競合しており、通常は選別部に補助者が石等の除去に当たるが、人手がなく、焦って仕事をしていた。また、上がって来た石は、搬送ローラから搬送コンベアまでくると、安全に自余居できるのだが、待つことが無く手を入れてしまった。	<ul style="list-style-type: none"> 十分な労働力を確保するか、収穫時期が競合しない作目を検討し、できるだけ余裕のある作業となるよう検討することが必要。 機械の設計段階で、巻き込まれが生じにくい搬送方法について検討が必要。 	ゴム製のだぶつきのない手袋をしていたが、その上から患部にガムテープを巻いて作業を続けた。夜に自宅で滅菌ガーゼを当てて治療していたが、痛みが酷くなってきたので4日後に病院で剥離した爪の切除施術を受けた。現在も患部が若干、腫れており、時折痛みを感じる。	右手人差指の爪の剥離	通院2日

V. 畜産

1. 乳牛

連続NO	地区名	性別	年齢	平成年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入通院
50	宮崎	2	61	27	9	10	水	牛舎で牛の世話をしていた時、癖のある牛が近寄ってきて、背後から股間に頭を入れ投げ飛ばされた。	癖のある牛であり、他の作業員にも注意を促していたが、しばらくはおとなしくしていたので、近づいて来たが、気を許していた。	気の荒い牛は、いつまでも飼わずに、処分することも重要。	他に誰もいなくも必死で畜舎の外に這い出た。その後獣医が来訪、家族に連絡、救急車にて搬送、緊急手術、入院後リハビリに3ヵ月以上通院中	右大腿骨遠位端骨折	入院90日、通3ヵ月以上

2. 畜産関係の機械

連続NO	地区名	性別	年齢	平成年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入通院
51	北海道	1	40	26	8	18	金	麦稈のロール作業が終わり、いつもはエンジンを止めて清掃してから、チェーン等に注油することになっていたが、作業が予定よりも遅れたため、チェーンにグリスだけ塗っておこうと思った。チェーンの近くに麦わらが引っかかっているのが目に入り、取り除こうとして右手の人差指と中指が動いているチェーンとスプロケットの間に巻き込まれた。	チェーンが駆動している所に、手を入れて麦わらを取ろうとして、指が巻き込まれた。	・整備する際は、いかなる場合でも機械を止めることにした。 ・農業機械にもインターロック機構が導入されることが望ましい。	家族の車で病院受診、そこでは処置できず、別の大きな病院に救急車で転送、手術を受けた。指先を欠損、握力が低下、時折痛みが走る後遺症がある。農作業時も以前より能率が低下し、日常生活でも時折不自由を感じるとのこと。	右手人差指第2関節と中指第1関節の切断	入院1日、通院30日
52	北海道	1	63	27	3	15	月	スキッドローダのアームに付けていたフォークを麦稈ロールベールの上に載せて外した。進行方向前方に傾いて見えたので、手前には落ちてこないと判断し、アームを持ち上げたところ、フォークが手前に向かって180°回転しながら運転席に落ち、フォークの先端が被害者の右膝真横に刺さった。	不安定な形状のロールベラーの上に、重い重量物を置いた。場所の安定性についての配慮が不足していた。	・不安定な場所には、重量物は置かないように習慣づける必要がある。 ・機械類はいつも決められた場所に保管するよう習慣づけることが望ましい。 ・重量物の高所への静置は避ける。置く場合は、特に落下対策に配慮が必要。	事故後、痛みもあまりなく、出血少なく、夕方まで作業を継続。思いの外に傷が深く家族の運転で病院受診。事前に電話を入れていたので、すぐに治療開始。医師からは、「あと5cmずれていたら膝が割れていた」と言われた。5針の縫合、4回通院した。	右膝側部割創	通院4日
53	山形	1	50	25	10	15	水	4輪のボブキャットにベールグラブを付けて、水田内にてロールベールした藁を道路に出そうとしていた。水田より舗装道路に上がる進入路上で、ベールを降ろした瞬間に機体が後方転倒し、田面まで転がった。	もう少しで雨が降るという時で、焦りがあった。	大きくて安定しているタイヤショベルでロールベールを運んでいる。運転は息子さんが行っている。	シートベルトをしていたので、怪我はない。	-	-

2. 畜産関係の機械

連続NO	地区名	性別	年齢	平成年	月	時	曜	事故状況	主要な原因	提案・改善策	医療情報	傷病名	入通院
------	-----	----	----	-----	---	---	---	------	-------	--------	------	-----	-----

54	北海道	1	25	26	3	15	日	ミキサーフィーダに投入した飼料の混ざり具合を確認して、機械に備え付けのハシゴから降りたところ、剥き出しのユニバーサルジョイントに衣服が接触し、巻き込まれた	PTOのカバーが破損して無く、単に鉄の棒のように見え、高速回転しているようには見えなかった。また、服装は、巻き込まれ安い服装をしていた。	<ul style="list-style-type: none"> 動いているものには、近づかないことを徹底。 国産農機に使われているユニバーサルジョイントの防護カバーの多くは厚さ1.7mmである一方、輸入機に使われているものの厚さは約2.5mmとなっている。容易に破損しない強度を有するものに改善される必要がある。 	被害者が機械から脱出した後、ケガの状態は大したはことないと思っていたが、口からの出血が酷かったため、自力で自宅内に戻ったところ、直ちに家族が厚生病院に連れて行き、そこで治療を受け、その後、1カ月間通院した。	口蓋と両脚膝裏の裂創	通院30日
55	北海道	1	31	27	5	11	火	放牧草地で化成肥料の散布中、急傾斜に差し掛かった地点でトラクタが右に転倒、2、3回転しながら斜面を転落し、左後輪が脱落するなど大破したが、運転者は軽傷で済んだ	事前に圃場の形状の情報が十分ではなく、また、受傷者はこの圃場での散布が初めてで有り、圃場の起伏について、十分に前任者、経験者からの情報が与えられていなかった。	牧地を通常のトラクタでの作業が可能な地形に改良することが必要。傾斜が残る場合は、傾斜地用トラクタを導入するか、通常型トラクタの場合でも輪距を最大幅に拡大するとともにワイドタイヤを装着し、必要に応じて二重に装着することが必要。作業に危険を及ぼす箇所についての情報を共有し、そこには近寄らないようにする必要がある。	逆様になったトラクタから這いだし、身体に大きな異常は感じなかったが、念のため、携帯電話で家族に連絡し、車で病院へ連れて行ってもらった。病院で検査を受けた結果、背中の打撲あるいは必至でしがみついたための筋肉痛と判明し、大事には至らなかった。	背中の打撲	通院1日